



## 100. マボヤ

*Halocynthia roretzi*-  
species group  
(同胞種 3 種を含む)

図版41

英名 ascidian, sea squirt

露名 アスツイーディヤ  
асчидия

地方名(北海道) ホヤ

漢字 まぼや  
真海鞘

アイヌ語名 トツイ

【形態】 体は球形から卵形と変化に富み、上端には入水孔\*と出水孔\*がある。閉じたとき十文字になるのが入水孔で、一文字になるのが出水孔である。下端には海藻の根のような付着器がある。被のう\*は暗赤色からオレンジ色の革質で、先端に微細なとげのある乳頭状突起に不規則に覆われる。

筋膜\*は厚く、触手\*は枝状に分かれる。全長\*20cm、直径10cmになる。最近の研究で、これまでマボヤ*Halocynthia roretzi* 1種\*とされていたものは、3種の同胞種、つまり外部形態は極めて似るが互いに生殖することのない別な3種に分けられることが明らかとなった。

【生態】 日本各地のほか、朝鮮半島や山東半島に分布する。太平洋側では宮城県牡鹿半島以北、日本海側では秋田県男鹿半島以北に主に分布する。北海道では津軽海峡から日本海側に多い。潮下帯\*から水深20mくらいまでの、岩などに付着する。入水孔から海水をとりこみ、餌となるプランクトンやデトリタス\*をこしとってから、糞とともに出水孔から排出する。

北海道での産卵期は11~12月。陸奥湾では10月末~11月、11月、12~翌4月に産卵する3つの群が確認されている。雌雄同体\*だが、同じ個体の卵と精子が受精することはなく、受精はほかの個体どうしで行われる。産卵行動は極めて特徴的。まず出水孔が閉じ、そこから精子が糸状にもれ出すと、入水

孔も閉じる。次に体腔<sup>たいこう</sup>\*が急激に収縮し、出水孔から卵と精子を約50～60cmも噴出する。体腔は数分で元にもどり、同様の産卵行動が約1時間にわたり6～10回繰り返される。1個体当たりの産卵数\*は約32万粒。

受精卵は水温14°Cでは2日でふ化し、尾部に原始的な脊索<sup>せきさく</sup>\*を持つオタマジャクシ形幼生\*となる。これは、ホヤが脊椎動物<sup>せきつい</sup>に近い脊索動物\*である証拠である。幼生\*はしだいに尾部が吸収されて球形に近くなり、2日後には付着生活に移行する。さらに2～3カ月経つと1～1.5mmに成長し、栗のいが状となる。マボヤは飼育が簡単なうえ、脊椎動物に近い生物であるにもかかわらず発生が速く幼生の細胞数が少ないため、実験動物としてよく用いられる。



マボヤ (上) とアカボヤ (下)